

研究紹介

学校安全

命を守る安全・防災教育の推進

〈危機意識を高めるための取組と校長の役割〉

山陽小野田市立有帆小学校長

江 中 幸 夫



一 はじめに

本市では、過去の自然災害の教訓から、市全体としての共通的な取組や各学校での取組を検証する中で、校長の指導性や果たす役割を意識し、児童、教職員、保護者、地域等、周囲への働きかけをどのようにすればよいかを追求してきた。これらを、「身に付けさせたい力」の明確化、教職員の意識改革、情報発信と連携、P D C Aサイクルの面からまとめ、今後の取組の充実により一層図りたいと考えた。

二 研究の視点

自ら考え、判断し、行動できる子どもを育む安全・防災教育の推進

三 研究の実際

(一)本市の取組の概要

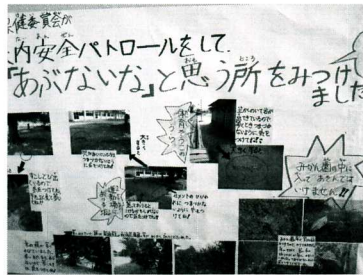
ア 生徒指導・防災に係る指針

- ・保護者に対して(自助)
- ・地域に対して(共助)
- ・学校に対して(公助)

(二)A小学校の取組

ア 児童による安全点検

- ・校内安全パトロール
- ・全校朝会・壁新聞等による注意喚起



壁新聞による啓発

イ 育友会(P T A)における取組

- ・自転車乗車時のヘルメット着用に係る保護者アンケートの実施
- ・ヘルメット着用の義務化

(三)その他の小学校の取組

ア 地域安全マップ

- ・登校班による通学路の危険箇所点検
- ・保護者・地域との連携

イ 交通安全のKY T学習

- ・事前のKY T学習
- ・児童による通学路の点検
- ・全校朝会による啓発

ウ ブラインド方式の避難訓練

- ・予告無しでの避難訓練
- ・実施後の教職員による検討会
- ・大学と連携した防災授業
- ・山口大学工学部との連携

四 校長の役割

(一)「身に付けさせたい力」の明確化

- ア 児童自らが危機意識をもつ
- イ 対策を考える
- ウ 一般化・生活化する

(二)教職員の意識改革

- ア ブラインド方式からの教訓
- ・臨機応変に対応することの大切さを体験的に学ぶ
- ・避難訓練を繰り返す

イ 従前の固定観念からの脱却

- (三)情報発信と連携
- ア 緊急連絡の徹底
- イ 保護者・地域への啓発
- ウ 学校や地域の実態に合わせた対応

(四)P D C Aサイクル

- ア 学校安全計画(P L A N)
- イ 年間計画による実行(D O)
- ウ 定期的な点検(C H E C K)
- エ 評価による改善(A C T I O N)

五 成果と課題

(一)成果

- ア 危機意識の高揚

・教職員の意識の高まり

- ・児童の意識の高まり
- ・保護者・地域への普及
- ・積極的な情報発信

・安全に関する理解の深まり

- ・児童の自発的活動の増加
- ・児童による活動の効果
- ・活動の広がり

・市の判断基準の明確化

- ・あらゆる事態を想定
- ・全市的な判断基準の重要性

(二)課題

- ア 関係機関との連携の深化
- ・市の防災課との連携
- イ 地域防災と学校との関わり
- ・地域の防災訓練とのタイアップ
- ウ より正確な災害情報のキャッチ
- ・情報の入手先の検討
- エ より具体的な全市連携の危機管理体制
- ・引き渡しカード
- ・ブラインド方式のマニュアル化

六 おわりに

これまで本市において共通的に取り組んできた内容を再確認するとともに、各校での取組の成果を共通のアイテムとして活用していくことが必要である。また、これまで他県・他市及び本市で起きた災害の教訓を忘れることなく、児童のさらなる安全確保のために、校長として、今後も防災教育への取組をより充実していきたい。